

ガザ停戦のジェスチャー

クリス・ヘッジズ

インターナショナルリスト 360 2025 年 1 月 17 日

<https://libya360.wordpress.com/2025/01/17/the-ceasefire-charade/>

イスラエルの駆け引きはズル賢い。パレスチナと段階的な合意を結び、望むものをすぐに手に入れられるようにしたうえで、次の段階からは合意を破り、軍事攻撃を再開する。

イスラエルは何十年も前から、二枚舌を使ってきた。それは段階的に実施されるパレスチナ人との取引に署名する。しかし公正で公平な和平につながる後続の段階はいつも実行しない。というものだ。結局、無差別武力攻撃でパレスチナ人を挑発して報復させ、それを挑発と決めつけて停戦協定を破棄し、虐殺を再燃させる。

最近の 3 段階停戦協定がイスラエルによって批准されても、大統領就任式での爆撃の一時停止に過ぎないだろう。イスラエルは死のメリーゴーランドを止めるつもりはない。

イスラエル内閣は停戦提案の採決を延期した。この 24 時間で少なくとも 81 人のパレスチナ人が殺害された。

停戦合意が発表された翌朝、イスラエルのネタニヤフ首相はハマスが "最後の譲歩を強要するために "合意の一部を反故にしたと非難した。ハマスが合意の全要素を受け入れたと仲介者がイスラエルに通知するまで、内閣は会合を開かないと警告した。

ハマスは、ネタニヤフの主張を退け、調停者と合意した停戦へのコミットメントを繰り返した。

協定には3つの段階がある。第1段階は42日間で、敵対行為を停止する。ハマス側は、イスラエルの人質の一部（2023年10月7日に捕らえられた33人のイスラエル人（残りの5人の女性全員、50歳以上の者、病気の者を含む））を、イスラエルに収監されている最大1,000人のパレスチナ人と引き換えに解放する。

イスラエル軍は停戦初日にガザ地区の人口密集地から撤退する。7日目には、避難民であるパレスチナ人がガザ北部に戻ることが許可される。イスラエルは、食料や医療品を積んだ600台の援助トラックが毎日ガザに入ることを許可する。

停戦16日目に始まる第2段階では、残りのイスラエル人人質が解放される。イスラエルは、第2段階中にガザからの撤退を完了し、ガザとエジプトの間の8マイルの国境に沿って延びるフィラデルフィア回廊の一部に駐留を維持する。イスラエルは、エジプトへのラファ国境通過の支配権を放棄する。第3段階では、戦争の恒久的終結に向けた交渉が行われる。

しかし、ネタニヤフ首相府はすでに合意を反故にしているように見える。声明を発表して、停戦から42日間のフィラデルフィア回廊からの軍の撤退を拒否した。声明は「実際は、イスラエルは追って通告があるまでフィラデルフィア回廊にとどまるだろう」としながら、パレスチナ人は合意に違反しようとしていると主張している。パレスチナ人は、数々の停戦交渉を通じて、イスラエル軍のガザからの撤退を要求してきた。エジプトは、イスラエルによる国境通過路の占拠を非難している。

イスラエルとハマスの間にある深い亀裂は、たとえイスラエルが最終的に合意を受け入れたとしても、合意を崩壊させる恐れがある。ハマス側は恒久的な停戦を求めている。しかし、イスラエルの政策は、軍事的に再び関与する「権利」を明確に示している。誰がガザを統治するかについてのコンセンサスはない。イスラエルは、ハマスの政権継続は容認できないと明言している。連機関であり、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）は避難民の95%を占めるパレスチナ人に人道援助の大部分を提供しているが、この機関をイスラエルが非合法化しており、合意にはその地位については言及されていない。瓦礫と化したガザ復興についての合意はない。また独立した主権を持つパレスチナ国家への道筋もない。

イスラエルの欺瞞と工作は、哀れなほど予測可能だ。1979年、エジプトのアンワル・サダト大統領とイスラエルのベギン首相が、パレスチナ解放機構（PLO）の参加なしに調印したキャンプ・デービッド合意は、イスラエルとエジプトの外交関係を正常化した。しかし、その後の段階には、イスラエルがヨルダンやエジプトとともにパレスチナ問題を解決し、5年以内にヨルダン川西岸とガザでのパレスチナ人の自治を許可し、東エルサレムを含むヨルダン川西岸でのイスラエルの植民地建設を中止するという約束が含まれていたが、守られることはなかった。

1993年のオスロ合意を考えてみよう。PLOがイスラエルの生存権を承認し、イスラエルがPLOをパレスチナ人の正当な代表として承認した1993年の協定と、和平とパレスチナ国家に向けたプロセスを詳述した1995年調印のオスロ第2次協定は死産となった。オスロ2号では、違法なユダヤ人「入植地」についての議論は、「最終的な」地位協議まで延期され、その時までにはヨルダン川西岸地区からのイスラエル軍の撤退が完了することになっていた。統治権はイスラエルから一時的とされるパレスチナ自治政府に移譲された。ヨルダン川西岸地区はA地区、B地区、C地区に分割され、パレスチナ自治政府はA地区とB地区で限られた権限しか持たない。

イスラエルが建国された1948年に奪われた歴史的な土地に戻るパレスチナ難民の権利（国際法に明記された権利）は、PLO指導者のヤセル・アラファトに

よって放棄され、多くのパレスチナ人、特に 75%が難民または難民の子孫であるガザの人々を即座に疎外してしまった。エドワード・サイードはオスロ合意を「パレスチナ人の降伏の道具、パレスチナ人のベルサイユ」と呼び、アラファトを「パレスチナ人のペタン」と揶揄した。

オスロで予定されていたイスラエル軍の撤退は実現しなかった。暫定合意には、ユダヤ人の植民地化を終わらせるという条項はなく、"一方的な措置"の禁止だけが規定されていた。オスロ合意当時、ヨルダン川西岸には約 25 万人のユダヤ人入植者がいた。彼らは 70 万人にまで増加した。最終的な条約が結ばれることはなかった。

ジャーナリストのロバート・フィスクは、オスロ条約を「見せかけの嘘であり、アラファトと PLO が四半世紀以上にわたって求め、闘ってきたものをすべて放棄させるための策略であり、国家樹立という願望を無力化させるために偽りの希望を作り出す方法である」と呼んだ。

オスロ合意に署名したイスラエルのラビン首相は、1995 年 11 月 4 日、極右のユダヤ人法学生イガル・アミールによって、合意を支持する集会の後に暗殺された。現在のイスラエルのベングヴィール国家安全保障相は、ラビンを脅迫した多くの右翼政治家の一人であった。ラビン未亡人のレアは、ネタニヤフ首相と彼の支持者たち（彼らは政治集会でナチスの制服を着たラビンを描いたピラを配布した）を夫の殺害について非難した。

イスラエルはそれ以来、一連の殺人的な攻撃をガザに対して行っており、皮肉にも砲撃を "芝刈り" と呼んでいる。多数の死傷者を出し、ガザの脆弱なインフラをさらに劣化させるこれらの攻撃には、「虹作戦」（2004 年）、「懺悔の日々作戦」（2004 年）、「夏の雨作戦」（2006 年）、「秋の雲作戦」（2006 年）、「暑い冬作戦」（2008 年）といった名前がつけられている。

イスラエルは、エジプトが仲介したハマスとの停戦合意（2008 年 6 月）を反故にし、6 人のハマス・メンバーを殺害した。この襲撃は、イスラエルの意図通り、ハマスの報復攻撃を誘発し、ハマスがイスラエルに向けて粗悪なロケット弾や迫撃砲弾を発射した。ハマスの弾幕は、イスラエルによる大規模な攻

撃の口実となった。イスラエルはいつものように自衛権を理由に軍事攻撃を正当化した。

イスラエル空軍が1000トン以上の爆薬をガザに投下して22日間にわたって地上攻撃と空爆を行った「キャスト・リード作戦」（2008～2009年）では、1,385人が死亡した（イスラエルの人権団体B'Tselemによる）。同じ期間にハマスのロケット弾で4人のイスラエル人が死亡し、ガザでは9人のイスラエル兵が死亡した。イスラエルの新聞『Haaretz』は後に、「キャスト・リード作戦」がそれまでの6カ月間に準備されていたと報じている。

イスラエル軍に所属していたイスラエルの歴史家アヴィ・シュレイムは、次のように書いている。

イスラエル軍兵士の残忍さは、そのスポークスマンの愚かさと完全に一致している.....彼らのプロパガンダは嘘の塊だ.....停戦を破ったのはハマスではなく、イスラエル国防軍だった。11月4日にガザに突入し、ハマスの6人を殺害したのだ。イスラエルの目的は、自国民の防衛だけでなく、国民を支配者に敵対させることで、最終的にガザのハマス政権を転覆させることにある。

これらの一連のガザ攻撃は、2012年11月に「防衛の柱作戦」として知られるイスラエル軍の攻撃、そして2014年7月と8月に行われた「保護的エッジ作戦」（7週間の作戦）に続いて行われ、67人の兵士を含む73人のイスラエル人と共に、2,251人のパレスチナ人が死亡した。

イスラエル軍によるこのような攻撃の後、2018年にガザのフェンスで囲まれたバリアに沿って、「帰還大行進」として知られるパレスチナ人による平和的な抗議行動が起こった。266人以上のパレスチナ人がイスラエル軍兵士によって銃殺され、3万人以上が負傷した。2021年5月、イスラエルはエルサレムのアル・アクサ・モスクの礼拝者に対するイスラエル警察の攻撃を受けて、ガザで256人以上のパレスチナ人を殺害した。さらに2023年4月には、アル・アクサ・モスクの礼拝者に対する攻撃が行われた。

そして2023年10月7日、ガザを囲む安全バリアが破られた。ガザでは、パレスチナ人が16年以上にわたって封鎖され、野放しの牢獄に閉じ込められていた。パレスチナの武装集団による攻撃は、イスラエル人約1,200人（イスラエル自身によって殺された数百人を含む）を死亡させ、イスラエルに、ガザを破壊するために長い間探し求めていた口実を与えた。

この恐ろしい武勇伝は終わっていない。イスラエルの目標は、パレスチナ人を彼らの土地から抹殺することである。この停戦案は、さらに皮肉な一章である。この停戦には多くの可能性があり、そして私は、おそらく崩壊するのではないかと思っている。

しかし、少なくとも当面は、大量殺戮が止むことを祈ろう。

筆者のChris Hedges は元ニューヨーク・タイムズの外交記者でピューリッツァ賞受賞したこともあるジャーナリスト

【翻訳チェック 田中靖宏】